

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
32405	簿記応用演習 Bookkeeping application exercise	松葉哲也	✓	専門	1	選択	1.2後期

**科目の概要**

簿記とは、会社などの事業者が日々行う取引を記録・集計し、最終的に貸借対照表と損益計算書を作成することで事業者の財政状態と経営成績を明らかにするための基本的技能である。ビジネスの多様化を含む現代で自立したライフスタイルをデザインするための専門的知識を修得することはディプロマ・ポリシーの③に相当し、その知識・技能として簿記を修得するとともに、経営上の課題を発見し解決する能力につなげていく。★税理士としての会計及び税務実務経験を活かし、この科目では原則として簿記の経験者を対象に簿記知識の増進を目指す。

学修内容	到達目標
① 簿記の目的と基本構造を理解する。 ② 事業を行う上で通常出現する取引について仕訳する方法を知る。 ③ 仕訳を帳簿に転記し、試算表作成から決算整理を経て財務諸表を作成するという簿記一巡の流れを知る。 ④ 財務諸表の意味を理解し、そこから経営課題を見つけ出す方法を知る。 ⑤ 簿記を通じて財政状況と経営成績を把握し、問題提起と解決策を見つけるヒントを知る。	① 簿記一巡の流れを説明することができる。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。 ② 事業上一般的に出現する取引について仕訳を行うことができる。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。 ③ 試算表と決算書の意味を理解し、作成することができる。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。 ④ 財務諸表を作成し、経営状況の分析をすることができる。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。 ⑤ 経営上の課題を発見し、解決策を考察する。ディプロマ・ポリシーの③に相当する。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	ア. 簿記を使うために必要な知識について、教科書を使って自己学修することができる。 イ. 課題を通じて自ら練習する態度を身に付けることができる。
	働きかけ力	
	実行力	ア. 仕訳を行うために必要な思考を、反復練習により身に付けることができる。 イ. 目標を設定し、最後までやり遂げることができる。
考え抜く力	課題発見力	簿記という統一されたルールに基づいて情報を客観的に整理することで、経営状況を判断して経営上の課題に気づくなど、問題を自ら見極めることができる。
	計画力	
	創造力	ア. 簿記という手段により、一つの事柄を多面的に捉えることを学び、固定概念にとらわれない情報理解のきっかけを手に入れることができる。 イ. 社会に出たときに職場の課題を数値情報として把握し、解決するための視点を獲得することができる。
チームで働く力	発信力	課題に取り組むうえで、自分の考えを相手に説明できる機会が期待でき、聞き手に伝わりやすいように工夫して発表することができる。
	傾聴力	課題に取り組むうえで、他人の意見を確認して、その内容を自分の学びに活かすことができる。それを踏まえた自分の意見も述べるすることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト：「サクッとわかる日商3級商業簿記テキスト【第3版】」 桑原知之著 ネットスクール出版 1,320 円  
 参考文献：講義中指示する

**他科目との関連、資格との関連**

他科目との関連：簿記基礎演習  
 資格との関連：簿記検定

学修上の助言	受講生とのルール
毎回の授業で復習用問題が配布されるので、次回の授業までに解いて前回までの授業内容を復習しておくこと。小テストで間違えた箇所についてはテキストで再確認すること。	小テストのうち少なくとも1回及び第14週目の最終テスト、第15週目の授業は必ず受けること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		40	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		レポート		50	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S：損益計算書と貸借対照表の内容から、経営成績と財政状態の概要を把握したうえで、経営上の課題と解決策を各1つ以上挙げることができる。</p> <p>A：決算時にのみ行う決算整理仕訳にはどのような種類のものがあるか理解できており、実際に決算整理仕訳を精算表に正しく記入できる。さらに、精算表の作成により損益計算書欄において当期純利益（又は損失）を算出し、その額を貸借対照表欄に転記したうえで損益計算書と貸借対照表を完成できる。</p>	<p>B：総勘定元帳に転記された数字を集計して、合計試算表と残高試算表という2種類の試算表を、その相違点を理解しながら作成することができる。与えられた資料を適切に使いながら、問題文の指示に従った試算表を作成することができる。</p> <p>C：簿記独特の整理手法である仕訳の概念を理解し、収益と費用・商品売買など基本的な取引について仕訳することができる。また、その仕訳を勘定科目ごとに集計して合計・残高を把握するため、総勘定元帳に正しく転記することができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	簿記の最終目的が貸借対照表と損益計算書の作成にあることと、その記載内容を学修する。さらに、貸借対照表と損益計算書が示す意味と両者の関係について理解する。	講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	貸借対照表と損益計算書の意義を説明できる。それらの構成要素は資産・負債・資本・収益・費用であることを理解し、各々のホームポジションが借方(左側)・貸方(右側)のどちらかを正しく答えることができる。	(予習) 簿記の存在目的は仕訳を集計することにより財務諸表を作成することにあることを予習する。 (復習) 貸借対照表と損益計算書の意義とその構成要素、ホームポジションを暗記する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
2	簿記独特の記録方法である仕訳について学ぶ。資産・負債・資本・収益・費用が減少するときはホームポジションの反対側に記入することを理解し、基本的な取引を実際に仕訳する。	講義 練習問題 簿記検定過去問題演習問題のポイントを解説することでフィードバック	資産・負債・資本・収益・費用の各要素が減少した場合はホームポジションの反対側に記入することを理解し、基本的な取引を正しく仕訳できる。	(予習) 簿記の基本的なルールである仕訳について予習する。 (復習) 仕訳は資産・負債・資本・収益・費用の増加と減少を組み合わせで構成されることを意識しながら、基本的な仕訳を練習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
3	仕訳の次のステップとして、仕訳を勘定に転記して勘定科目ごとの合計や残高を把握することを学ぶ。	講義 練習問題 簿記検定過去問題演習問題のポイントを解説することでフィードバック	仕訳を勘定に転記する方法と、転記された数字は何を意味するのかを理解している。	(予習) 仕訳を勘定科目ごとに集計する方法として勘定転記を予習する。 (復習) 仕訳を勘定に転記する方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
4	現金・預金・収益・費用に関する仕訳を学ぶ。特に小切手の意義と受け取った場合、振り出した場合の仕訳を学修する。期末に未使用の消耗品がある場合の仕訳を学ぶ。	小テスト(パソコン上で表示・回答する) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	小切手を受け取った場合、振出した場合について正しく仕訳できる。期末に未使用の消耗品がある場合の仕訳を理解している。小テストで50%以上得点する。	(予習) 小切手を受け取った又は振出した場合の仕訳を予習する。 (復習) 小切手の意義と受け取った場合、振り出した場合の仕訳を復習する。また、期末に未使用の消耗品がある場合の仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
5	事業の基本である商品売買の時に行う仕訳を学ぶ。さらに、売れた商品をいくらで仕入れたか(売上原価)を計算するための仕訳について学ぶ。	小テストの要点をパソコン上に表示し振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	商品の仕入れ、売却、売上原価算定という3つの場面ごとに必要な仕訳のパターンを理解している。	(予習) 商品売買の仕訳を予習する。 (復習) 商品の仕入れ、売却、売上原価算定という3つの場面ごとに必要な仕訳は決まっているので、理解したうえで復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
6	商品売買の過程で発生する売掛金などの債権・債務について仕訳を学ぶ。また、伝統的な代金決済手段である約束手形の特性を理解し、その仕訳を学ぶ。	講義 練習問題 簿記検定過去問題演習問題のポイントを解説することでフィードバック	約束手形の意味と使用する場面が理解でき、約束手形を含む債権・債務が増加又は減少する取引の仕訳ができる。	(予習) 約束手形の仕訳について予習する。 (復習) 約束手形は振出す場合と受け取る場合で異なる勘定科目を使用することをはじめ、債権・債務の仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
7	固定資産を購入・保有する場合の仕訳について学修する。固定資産の価値下落を長期にわたり費用化する減価償却という手続について知り、その仕訳方法を学ぶ。	講義 練習問題 簿記検定過去問題演習問題のポイントを解説することでフィードバック	与えられた資料から減価償却費の計算ができる。仕訳することができる。	(予習) 固定資産の価値が経年・使用により下落することをどう仕訳するか予習する。 (復習) 固定資産の取得原価を費用化するという減価償却の概念を理解し、その仕訳方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
8	仮払金・立替金・預り金など一時的な金銭の授受についての仕訳を学修する。また、仕訳の勘定転記から一歩進めて、勘定科目ごとの合計や残高を集めて試算表を作成することを学ぶ。	小テスト(パソコン上で表示・回答する) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	一時的な金銭の授受についての仕訳ができる。仕訳を勘定転記し、勘定科目ごとの合計や残高を基に2種類の試算表が作成できる。小テストで50%以上得点する。	(予習) 出張費の前払など一時的な取引の仕訳を予習する。 (復習) 一時的な金銭の授受についての仕訳を復習する。また、合計試算表と残高試算表の違いを明確にしつつ、試算表の作成方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	仕訳を転記して記録する帳簿は主要簿と補助簿に大別される。その主要簿と補助簿の種類・目的を学ぶ。補助簿については、簿記検定でも出題の多い商品有高帳について理解を深める。	小テストの要点をパソコン上に表示し振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	商品有高帳は商品の払出単価の決定方法によって主に先入先出法と移動平均法という2種類の記帳方法があることを理解し、それぞれの方法で記帳できる。	(予習) 帳簿組織の基本的な構成を予習する。 (復習) 商品有高帳は売価ではなく原価を管理するものであることを理解しながら2種類の商品有高帳を実際に記入してみる。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
10	1冊しかない仕訳帳では同時に一人しか仕訳できない弱点を補う方法として伝票会計を学修する。また、決算を迎えるに当たり、帳簿を締め切る方法を学ぶ。	講義 練習問題 簿記検定過去問題演習問題のポイントを解説することでフィードバック	伝票会計で使用する3種類の伝票の意味を理解し、場面に応じて使い分けができる。帳簿の締め切りを正しく記入できる。	(予習) 一時に複数人が仕訳するための手段である伝票会計について予習する。 (復習) 取引を3種類の伝票を組み合わせて処理する方法を復習する。また、帳簿締切の記載方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
11	1年間の経営成績を把握するために1年ごとに決算を行うが、その決算時のみ行う仕訳である決算整理仕訳のパターンを学び、実際に仕訳を行う。	小テスト(パソコン上で表示・回答する) 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	決算整理仕訳について、決算時にのみ行う理由を理解し、実際に仕訳することができる。小テストで50%以上の点を取る。	(予習) 決算整理仕訳について予習する。 (復習) 決算整理仕訳のパターンは決まっているのでそれぞれの内容を理解しながら仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
12	決算整理仕訳の続き(費用と収益の期末調整)について、4つのパターンと意味を理解し、その仕訳を学ぶ。	小テストの要点をパソコン上に表示し振り返り解説 講義 練習問題 練習問題のポイントを解説することでフィードバック	決算整理仕訳のうち、費用と収益の期末調整について4つのパターンを区別し、仕訳することができる。	(予習) 決算整理仕訳のうち未学修の「費用と収益の期末調整」について予習する。 (復習) 費用と収益の期末調整の4パターンを整理しつつ、仕訳を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
13	残高試算表に決算整理仕訳を加えて貸借対照表と損益計算書を作るまでを一つの表にしたものを精算表という。今回はこの精算表の記入方法と、損益計算書で利益を計算する方法を学ぶ。	講義 練習問題 簿記検定過去問題演習問題のポイントを解説することでフィードバック	精算表の記入方法を理解し、当期純利益(又は損失)を計算することができる。	(予習) 精算表の概念と記入方法を予習する。 (復習) 精算表は残高試算表に決算整理仕訳を加えて財務諸表を作るまでを一つの表にしたものであることを理解しながら、その記入・完成方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
14	最終テスト(前回授業までの内容から出題する。精算表は必ず出題する。)	最終テスト(パソコン上で表示・回答する) 最終テストの要点をパソコン上に表示し振り返り解説	仕訳を帳簿へ転記し、決算整理を経て貸借対照表と損益計算書を作るという簿記一巡の流れを理解していること。具体的には、基本的な取引を正しく仕訳し、勘定に転記できていれば到達レベルCに達しているものとする。	(予習) 最終テストに向けてこれまでの小テストの出題内容を見直す。 (復習) 最終テストのポイント解説内容を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
15	財務諸表(貸借対照表と損益計算書)から経営成績と財政状態を判断し、経営上の課題を発見する着眼点を学ぶ。さらに、その課題を解決する方法も考察する。	オンデマンド レポート課題提出	貸借対照表と損益計算書を見るポイントを理解していること。少なくともこれらの財務諸表の目的を理解していれば、到達レベルCに達しているものとする。	(予習) 貸借対照表と損益計算書の目的と両者がどう関係しているかを復習する。 (復習) 経営上の課題発見につながる着眼点がどこだったかを復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力